

みやこりんせんめいしょうずえ

#6 都林泉名勝圖會

作者：秋里籬島（あきさと・りとう 生没年不詳）

刊行：寛政11年（1799）



📖 解題

[629. 2/35]

■ 内容

江戸後期の京都名園案内、名所解説。寺庭に焦点を当てつつ茶亭などを142の写生図によって紹介し、それに遠景図や詩歌の収載等と共に説明文を付す。自身の狂歌や俳諧、漢詩をはじめ、当代京都の名家による詩歌が多く載せられている。大本全5巻だが、第1巻を乾（けん）・坤（こん）の2冊に分けているので6冊本。刊記は「京都吉野家爲八 江都 須原屋善五郎 浪速 河内屋喜兵衛 河内屋太助 寛政十一己未歳仲夏発行 皇都書齋 六角通御幸町西江入町 小川多左衛門梓」。本書はいわゆるベストセラーであり、版を重ねたため、文字の不鮮明なものが多い。

■ 作者

江戸時代の読本作者秋里籬島は、名は舜福、字は湘夕。仁左衛門と称した。籬島は号。生没年不詳。京都生まれで父は五条室町の質屋、秋里仁左衛門。『秋里籬島と近世中後期の上方出版界』（藤川玲満著）によれば、籬島の著作等から早くて享保年間(1716-1736)末頃に生まれており、文化9年(1812)までは存命だったと考えられるようだ。安永9年(1780)に刊行した『都名所

図会』が大流行し、それ以降、画工と共に諸国を踏査して『大和名所図会』『東海道名所図会』などを出版した。また、軍記物を平易な文章にし、名所図会に倣って大本で挿絵を多く入れた『源平盛衰記図会』を寛政12年(1800)に刊行し、読本における「図会物」というジャンルの嚆矢となった。

主に名所図会作者として知られるが、貞門系の京都俳人、而咲堂練石に入門した俳諧師としても俳諧、狂歌等を多く残している。この他『京之水』『俳諧早作伝』『秘傳千羽鶴折形』など多数の著作がある。『風景の構図』(千田稔)によれば、作庭にも興味があった籬島は晩年「籬島軒秋里」と名を改め、庭造家としても活躍し『築山庭造伝』などの作庭書も著したようである。

木版画の画工としては佐久間草偃(そうえん)、西村梅溪、奥文鳴の3名があがっている。佐久間草偃(?-1814)は京都の人で松村月溪の門人。西村梅溪(1758-1835)は京都に住み名所図会や絵本を描いた。西村中和の名でも知られる。奥文鳴(?-1813)は京都生まれ。円山応挙の門に学び、応門十哲の一人といわれる。

📖 本文を読む

<翻刻>

- 『日本図会全集 9 都林泉名勝図会』日本随筆大成刊行會 1928
[291.03/56/9]
『都林泉名勝図会 京都の名所名園案内』上下 白幡洋三郎監修 講談社 1999
[629.21/11/1] [629.21/11/2]

📖 参考文献

- 飛田範夫「4.『都林泉名勝図会(巻1)』の庭園」(『造園雑誌』46(5)1983)
※当館未所蔵 CiNii オープンアクセスで閲覧可能
『風景の構図 地理的素描』千田稔著 地人書房 1992 [290.13/8]
『秋里籬島と近世中後期の上方出版界』藤川玲満著 勉誠出版 2014
[289.1/6000]